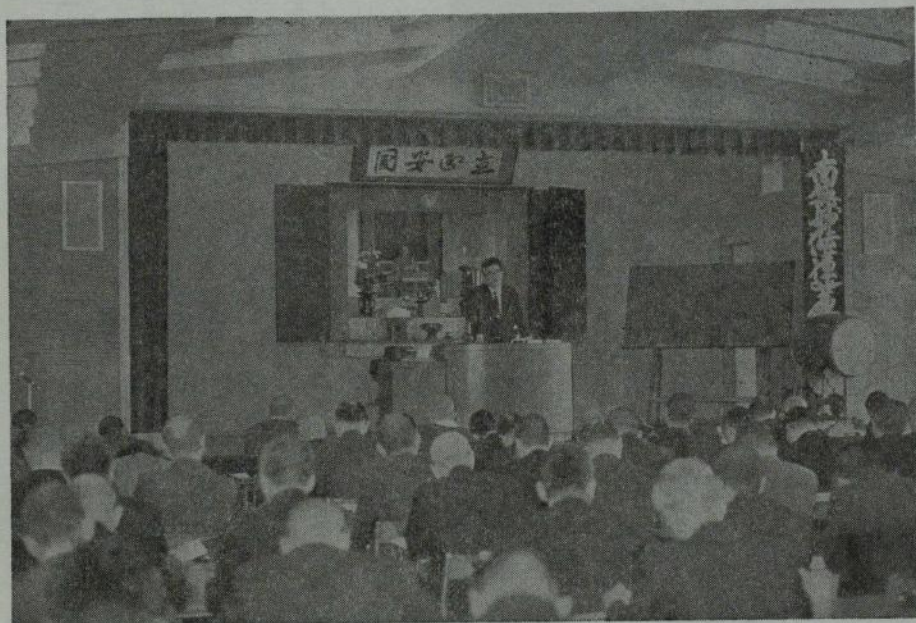


NO.186

# 全 仏

4 / 48



(会場いっぱいの受講者を集めて、宗教法人の管理運営と税務について開かれた全仏中央講習会—3月5日・日蓮宗宗務院講堂にて)

# 仏跡ポロブドールを視察して

金子 貫 達

(長崎・浄土宗 聖徳寺住職)

## 一、序 説

ユネスコは「文明の偉大な栄光は万人のもの」として、一九六〇年エジプトのヌビア遺跡救済を全世界にアピールし、今や画期的な保存工事が進められつつあることを契機として力を得、世界屈指の文化財と称されるシロクジャカルタにあるポロブドール仏跡の復旧を国際的協力によりその実動を展開しようとしている。

全日本仏教会は、大乘仏教国日本に対し、特に経済大国日本に、インドネシア国はもとより、ユネスコとしても日本の積極的な大きな役割を受持つであろうと期待していることに思いを及ぼさざるを得ないのである。

来る八月頃より、本格的な修復工事が行なわれる情報もあることからして、全仏としてポロブドールの実状に接し、詳細に目で確かめようとの議がなされて、「ポロブドール遺跡視察団」を派遣しようとして決定された。全仏誌を通じて全国的に団員の募集がなされて、既報の二十名の一団となった。

## 二、視察団出発

二月二十六日は春を思わせる暖かい快

晴であった。ジャワの温度は三十度から三十五度もあるとのこととて真夏の服装だが寒さは感じない程だった。空港二階の特別室で型通りの結団式が行なわれ、シューズによる乾杯は仏跡視察団に似つかわしいことであろう。全仏支給の真新しい輪袈裟姿の一行は一見して仏教者の一団と眺められ、思わず仏教のPRに役



インドネシア仏教会にて

立ったことでもあろう。定刻の九時五十分七一便の日航機は一千万都市大東京の大地を蹴って目的地ジャワへと飛立った。

## 三、インドネシア仏教会訪問

ジャカルタに一夜を明した視察団は、まずは第一番にと、インドネシア仏教会を訪問したのであった。聞くところによると、仏教会長はポロブドール修復援助その他の用務を帯びて不在であるので副会長とお会いし、来訪の記念として一体の積尊像(高さ五〇センチ、重さ一五キロ程度)を全仏に贈呈されたことは感激の外なく、末永く日本、インドネシア両仏教会の親睦、提携のシンボルとなることであろう。全仏も用意して行ったお土産料を副会長に贈呈し、庭園で仏教会副会長、奥さん、お嬢さんを混えての記念撮影をしてジャワ来島の一つの任務を終えた。

## 四、ポロブドール遺跡視察

「百聞は一見に如かず」は万古を貫く真理である。われわれは今、シロクジャカルター首都ジャカルタより東方、二時間の飛行距離にあるポロブドールに到着した。

眼前には土饅頭型であるが円塔、尖塔に覆われた石の山が天空に投影して美しい。基壇から第一、第二廻廊と登りつ、眺めつ、写真取りつと忙しい。四三二個残っているといわれる仏龕の中の御仏の端麗さ、その基盤には精細極致の彫刻がすき間もなく彫り込まれていて下胆を抜

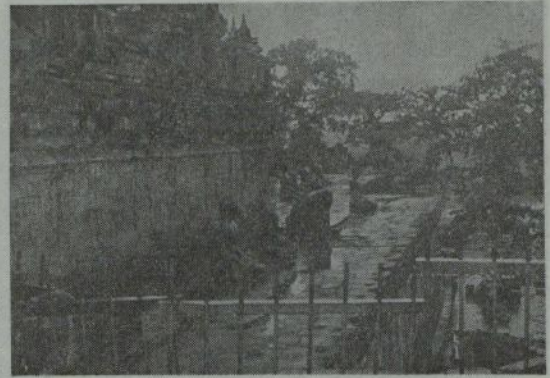
ポロブドール仏跡



かれた。この彫刻はいうまでもなく大乘仏典の彫刻絵巻で、よくもよく彫刻したものど驚嘆しない者があろうか。説明によるとこの彫刻絵巻をスッと接続して伸したとすると五キロに及ぶとのことである。彫刻の仏、菩薩、動物等一々ジツと眺めたとしたら何日間かかるだろうか。

スバラシイとは感嘆するものの、長い大きい自然の変化は、この彫刻も欠け落ちていたり天然痘病み上りのように痘痕の酷いのが多く見られる。一番上の中心スツァーバは往昔ビルマのパゴダの尖塔のように上部構造があったといわれるが今はなくなつて平坦になつてゐる。石の彫刻の山を急ぎ一巡して基壇に戻つたと、突然車軸を流すスコール来襲である

崩壊で下に安置された仏像—基壇上



乳白色だった安山岩の彫刻は黒味を帯びて重厚に輝き、あるいは場所によっては黒味と乳白色の素地とのコントラストを作り出し雨の操作の美また格別である。基壇の近くの大木の下に頭のない仏体が十数体行儀よく並んでおわす。恐らく回廊の主壁の上部に結跏趺座されていたのが、いつか落ちられたのを集められているのだろう。

仏  
可認便郵種3全  
風化作用を極限する薬物的施策、崩壊のおそれを素人ながらも感知さるる幾多の壁面、お顔のみなくて見事な仏体の数々、早く手を施し“偉大な栄光”を永く後代の人々に浴させねばならない！との使命感にも似た意欲が澎湃と私の胸に漲ったが、恐らく視察団員の誰の胸中も同じではなかったらうか。

三月八日午後十時、コンダクターを含む二十名、何等の事故もなく、一人の病人もなく元気で故国の羽田空港に帰還した。インドネシア仏教会との固い握手、

# 芸術性高い浮彫

町田 国夫

(日本仏教鑽仰会総務)

ポロブドールの文化遺産の感激と相続の責務感はどうしたならば日本人の、少なくとも日本仏教徒の物となるかを強く考えしめられているのである。

前夜の寒風が嘘のようになえて、おだやかで暖かな二月二十六日、羽田空港の集合時刻午前七時三十分には一人の遅刻者もなく結集し、航空荷物を日航のカウンターに預けたのち特別待合室に入る。少憩のあと、浄土宗聖徳寺(長崎県)住職金子貫達師を団長に迎え、総勢二十名で出発する全日本仏教会主催の“ポロブドール遺跡視察団”の結団式を行なった。

十時五十分離陸直前の東京の空は早くもスモッグに覆われて曇天を思わせるようであったが、数分後の雲上に達して見上げる空の美くしさは、紫に近いブルーで極限なき広がりを見せていた。生きとし生ける人間の心を東京の空とみれば、九千メートルに達した機上より見上げた空の色こそ、悟道を得た釈尊の心と譬えたくなつた。けだし私の実感である。このような考えをおこさせる環境、それは

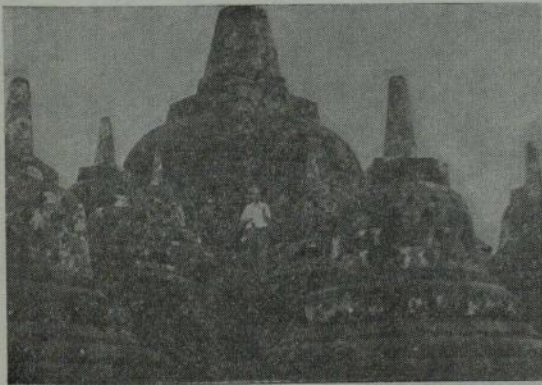
単なる観光旅行の団体でなく、仏教につながる心の結びつきによる“ポロブドール仏教遺跡視察団”という厳然たる目的による旅行団体であるが故であろう。在家者の私にもその団体の一員であることの誇りと名譽というよりも感謝に近い心の感動に打たれての美感的言葉である。

千島之国—印度尼西亚—これは中国語によるインドネシア国を表現した言葉である。日本語のパンフレットには“熱帯の夢の島”と表現してあったが、白髪三千丈の例ではないが、千島之国といったほうが夢が多く感じられるのではないだろうか。実際には一万三千余の島(このうち三千余の島に住民が居住している。そのうちである)の集合体がインドネシア国家である。

私たちの訪問した島はそのうちのたった二つである。すなわち、首都のあるジャワ島とバリ島だけであるから、これで

インドネシア国訪問とは少々厚釜しい。しかし仏教遺跡や仏教と深い関係にあるヒンズー教の歴史を今に残すヒンズー・ジャワ芸術の生きている主要な地域の視察で日本の仏教関係者や芸術家に話題を提供することに不足はないと思う。同行の各位も私と同じ考えを持たれていることと思う程に十分な時間と懇切な説明による現地視察に感謝している次第である。

私はこの地に来る前、タイおよびインドの仏教遺跡の巡拝をすませ、ベキスタンとアフガニスタン両国にまたがるガンダーラ仏教遺跡の視察を行なったのが縁で三度目の海外旅行として“ポロブドール遺跡視察団”の一員にしてもらえたのである。これら各国の仏教遺跡の特徴を対照的に詳記すると親切なのであるが

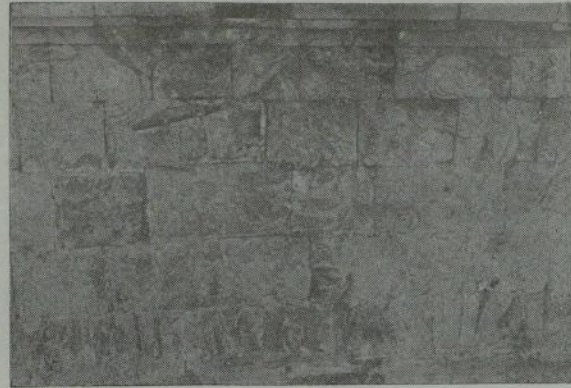


頂上中心スツーパー付近

昭和48年4月1日

紙面がないので残念に思う。しかしポロブドール仏教遺跡に見ることのできる千有余年前の仏教に対するこの地住民の信仰の高かったことが「目に見えるが如し」と表現しても過言であるまい。

ポロブドールが八世紀に建てられた世界最大の仏教寺院建築と賞讃されている所以は、インドのアジャンタ、エローラそしてカンボジアのアンコールワット等の遺跡と比較してのことであり、全世界の権威ある人々によって認められたからの結果である。たとえ現在、荒廃風化がその極に達しているとはいえ、全体の構築物に対しての評価であることは、それを現実に見た者でなければ理解し難いものである。たとえば、一壁一壁に刻まれ



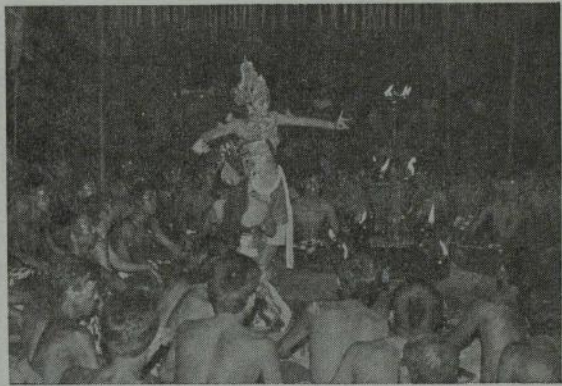
安山岩のブロックに彫られたレリーフ

ている浮彫（レリーフ）の見事な芸術性は信仰のない芸術家には到底制作し得ぬ高いレベルに達しているものばかりである。これもまた詳記できぬのが残念であるが「百聞は一見にしかず」の言葉でご理解を得ることにしたい。

その了解を得るための裏付けとして付言すれば、私たちはポロブドール遺跡を見る直前に、プランバナンのヒンズー寺院（チャンディ・ロロ・ジョングラン）を見学したのであるが、このヒンズー寺院は、当時この地方を統めていた王家の首長の骨を葬った廟として建てられたものである。人間が死しても欲に見捨てられぬ「業」のある如く、この首長も死ぬ直前に「ポロブドールにまけぬ立派な墓を作り我れを葬れ」といった遺言で作られたものである。そのプランバナンのヒンズー寺院の雄大さと荘厳さをして、仏教文化の大衆的エネルギーと精神的信仰的累積を基盤として具表されたポロブドール仏教寺院は建築構成から宗教美術、そのうえ全体の美観に至るまでに緻密な計算がなされたうえでできていることが理解し得る貴重かつ雄大な点で数等勝るものと私には感じた。それを実証するに、回教を国教と定めているインドネシア政府が国際協力を求めてまでポロブドール仏教寺院復興に力を注いでいることでおわかりになると思う。

しかるに、プランバナンのヒンズー寺院の荒廃も相当にひどいのであるが、ユネスコの救済が得られなかったことは誠に

ケチャックダンスを見るーバリ島



に残念である。出来得るならば両遺跡を同時に修復し、仏教芸術とヒンズーシワ芸術を比較しながら宗教文化の偉大な力を認識させることに努力してもらいたいと願うものである。

私たち視察団は、ジャカルタ市内にあるインドネシア仏教会を訪問して丁重な歓迎を受けた。この国の人口一億数千万人中、仏教徒は二千余人にすぎないそうだが、仏教が遺物化していない現実には接したとき、私はポロブドールの仏教寺院も遺跡でなく仏教徒の心の中に脈々として生きていることを確認し、併せて興隆を祈念したものである。

バリ島では、「日本には田舎がなくなくなった」といったグループの一人の言葉で

シンガポール日本人墓地



表現される最も自然に生活している所である。まさにバリ島を視察してこそいえた実感であろう。

シンガポール、東洋におけるヨーロッパの一都市の感が強いが、清潔で色彩豊かな所である。国政が国民一人一人に生かされているようで微笑まじさを覚えた。

バリ島もシンガポールも見てもらう以外、読者を納得し得ない私の筆の力を残念に思うが、インドの仏滅巡拝をすまされた人は、次の巡拝視察の地としてポロブドールを中心としたこの地を選ばれることをおすすめることにやぶさかでないことを付記して稿を了とするものである。

# おねがい

## 三億円事件

このたび「東京府中署三億円事件捜査本部」からの依頼がありまして、掲載の手配書を現在捜査範囲の関東甲府九都県の全寺院に配布してご協力をお願いしております。

この手配書のメガホン（トリア製ER三〇三型）は犯人が偽白バイに取り付けたまま遺留したのですが、関東一円に八五二台市販されておりましたものを、捜査本部でそのうち七二二台を発見し、残り一三一台の所有者を探しているとのことでもあります。

残り一三一台の行くえが判明しますと事件解決の見とおしが極めて明るくなる由に承っておりますので、誠にお手数ながら、手配書のメガホンと同型のものをお持ちの寺院その他関係者がありましたら、すでに廃棄、紛失等の事情がありましても、とりあえずご一報くださるようご協力をお願い申し上げます。

連絡先

○全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五

電話 〇三（八四三）六三四一〜三

○関東七都県各仏教会

山梨、静岡県仏教会

○警視庁府中署特別捜査本部

東京都府中市馬場東八九六四一二

電話 〇四二三（六四）八〇九八一〜九

仏  
認物郵便第3全

### 三億円犯人が使った

#### トリア製トランジスターメガホン（ER-303型）です

このメガホンは昭和43年3月から販売されたものです。



マークはこの2種類



- 持っていた人を知っている。
- 同じものをぬすまれた、なくなった。
- 他人に譲った。
- 買ってやった。
- 同じものを持っている。

お気づきの方はお知らせ下さい。

警視庁三億円事件捜査本部 加入電話 0423-64-8098-9

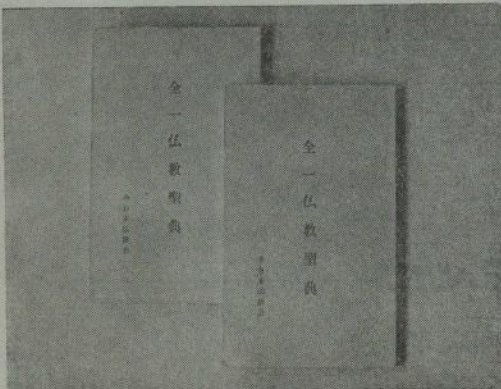
(〒183 府中市馬場東8964-2)

# 再刊 全一仏教聖典

頒布中

各宗派合同の集會等で使用できる聖典を、という多くの要望のもとに作成された「全一仏教聖典」を、このたび体裁活字等を一部改め、新たに仏教聖歌も加えて再刊した。

大きさは、新書版一〇四頁、糸かがり綴で、頒布価格は二百五十円。送料別。（成作費高騰のため既報の価格を訂正）  
内容は、第一部「勤行式」、懺悔文、三帰依文、開経偈、四弘誓願、成仏偈。第二部「諸宗聖教」、正信念仏偈、普門品偈、般若心経、光明真言、自我偈、修正義。付録「仏教聖歌」



# 平和の宗教者研究集会 開かる

世界宗教者会議日本委員会（日本宗教連盟の外局）全仏、神社、教派、キリスト教、新宗連加盟）の主催のもとに、三月十四日午前十時より京都グランドホテルにおいて開かれた。

この集會は一昨年十月、京都國際會議場で開かれた世界宗教者平和會議の意義を確認し、宗教者同志の出会いと今後の協力を促進するために開かれたものである。

当日は定刻までに仏教、キリスト教、神道、教派および新宗連に属する宗教者百余人が出席して午後まで熱心な討議が行なわれた。研究テーマは「宗教の出会いと協力」「平和のための國際協力」「人間性の確立」の三つでそれぞれ問題提起のあと研究部會をもち、最後に全体會議でしめくくった。

集會は午前十時、仏教の祈り（三帰依文唱和）によって開會され、庭野日敬委員長が世界宗教者會議（WCRP）の意義と京都以采の経過を報告し、この運動を一層強力に進めてゆきたい旨の挨拶をした。このあとテーマ別の問題提起が正午まで行なわれた。中食は神道の祈りではじまり、この各団体の代表がそれぞれ意見の発表を行なった。午後一時からテーマ別に分れて研究部會が開かれた。

「宗教の出会いと協力」部會では、宗教協力和出会いを促進する姿勢として、

まず宗教者の独善性と教団エゴイズムを反省すること。さらに共通の課題として宗教を基盤とした平和教育の必要性が強調された。

「平和のための國際協力」部會では平和の理念、平和を守る姿勢が論議されたあと、「平和憲法を守り、これを國際的に広げてゆく」「各国の武器の製造を禁止する」「良心的な兵役拒否を行なう」など具体的提案もあった。またベトナム、バン格拉デシュなど戦争被災国への援助活動として、「調査団を派遣する」「留学生を迎え入れる」「農業技術の援助のため日本の青年を派遣する」などの点も論議された。

「人間の回復と人間性の確立」部會では、現在の教育のあり方、とくに家庭における教育の問題があるとして、各教団において宗教情操教育を一層とりあげてゆく必要性が強調された。

この研究部會のあと、午後三時より全体會議が開かれ、各部會ごとに討議内容の報告、それにつづく全体討議があり、集會は午後五時にキリスト教の祈りをもって終了した。

当日の研究集會で討議され提案されたことは世界宗教者會議日本委員会で整理検討され、今後具体的に生かされてゆくことにならう。

## インド日本寺落慶

財団法人國際仏教興隆協會が積尊成道の聖地ブダガヤに建設中のインド日本寺は本年12月落成の運びとなり、12月1日から10日まで各宗・各団体によって現地で毎日慶讃法要が営まれます。

12月8日には全日本仏教会によって落慶式が厳修されます。

詳細は下記の取扱旅行会社にお問い合わせ下さい。

— 指定取扱旅行会社 —

國際旅行業協會會員

運輸大臣登録一般154号

株式会社 **子代田トラベル**

東京都港区青山5丁目6番20号（千成ビル）

電話407-3612(代)・400-5100 郵便番号107

# インド日本寺落慶式 全日本仏教会主催法要団日程

日数	月 日	時間	発着都市名	交 通 機 関	摘 要
1	12月 3日(月)	12:30 20:15	東 京 発 カルカッタ着	A I /303	インド航空でカルカッタへ (カルカッタ泊)
2	4日(火)	10:55 13:10	カルカッタ発 カトマンズ着	R A /203	ネパール航空でカトマンズへ 着後市内を小観光してホテルへ(カトマンズ泊)
3	5日(水)		カトマンズ 滞 在		(ご希望の方はヒマラヤ遊覧飛行へ)カトマンズとバタンのヒンズー、ラマ、仏教寺院など見学 (カトマンズ泊)
4	6日(木)	12:00 12:50	カトマンズ発 バトナ着 バトナ発 ラジギール着	I C /246 バ ス	出発まで自由行動 インド国内航空でバトナへ 着後バスでバタリプトラ跡、ナーランダ大学跡を見学して、ラジギールへ (ラジギール泊)
5	7日(金)		ラジギール発 ブダガヤ着	バ ス	早朝霊鷲山々頂で暁天参拝 竹林精舎、ビンビサラ王幽閉の跡など見学 バスで成道の地ブダガヤへ (ブダガヤ泊)
6	8日(土)		ブダガヤ滞在		ギリ大統領の臨席を得て、 インド日本寺落慶式厳修 (ブダガヤ泊)
7	9日(日)	14:20 19:40	ガ ヤ 発 ムガールサラ イ着	129列車	大塔、尼蓮河参拝 午後、列車でムガールサライへ バスでベナレスへ (ベナレス泊)
8	10日(月)	23:25	ベナレス発	列 車	早朝ガンジス河で沐浴見学 初転法輪の地サルナート参拝 ベナレス市内見学、ヒンズー大学等夜行列車でゴラクプールへ (車中泊)
9	11日(火)	05:22	ゴラクプール着 クシナガラ 滞 在		着後涅槃の地クシナガール参拝 涅槃堂等 (クシナガラ泊)
10	12日(水)	10:00 12:20 18:16 21:37	ゴラクプール発 ノーガル着 ノーガル発 バルランプール着	列車No.183 列車No.185	列車でノーガルへ 降誕の地ルンビニ参拝 再び列車でバルランプールへ(バルランプール泊)
11	13日(木)	15:00 18:00 20:40	ゴ ン グ 発 ラクノー着 ラクノー発	列車No.1 急 行	祇園精舎、舍衛城跡参拝 バスでゴングに出て、列車でラクノーへ 經由アグラへ (車中泊)
12	14日(金)	09:52 16:25 17:00	ア グ ラ 着 ア グ ラ 発 デ リ ー 着	I C /408	着後タジ・マハール、アグラ城、アジア救済センター訪問、インド国内航空でデリーへ(デリー泊)
13	15日(土)		デリー滞在		終日 ニューデリー、オールド・デリーの見学 (デリー泊)
14	16日(日)	07:45 22:40	デリー発 東 京 着	A I /310	インド航空310便でデリー発 帰国

インド日本寺落慶式

十二月  
八日  
全仏主催で厳修

大導師・佐藤泰舜殿下

ギリ大統領も臨席して

法要団募集

財団法人国際仏教興隆協会がかねてより、有縁各位の協賛と支援を得て、釈尊成道の聖地ブダガヤに建設中であつたインド日本寺は、今年十二月に待望の落慶式を迎へ、

式を迎へることになった。

興隆協会では、これを記念して十二月一日から十五日まで、各宗各団体によつて落成慶讃法要をつとめることとなつてゐるが、特に、十二月八日の釈尊成道の意義ある日を落慶式として、この大法要を全日本仏教会主催により会長佐藤泰舜殿下が大導師として厳修することになった。

当日は、インド国ギリ大統領が出席されるほか、在印の各仏教国の大使、各国仏教徒代表、インド・ビハール州のバンディ首相等多数の賓客が列席されること

になつてゐる。

全日本仏教会としては、ここに一団を派遣してこの意義深い法要を厳修するとともに仏蹟を巡拝する法要団を募集することになった。千載一遇のこの歴史的な勝縁に、多くの方々への御参加をおすすめする。

期 日 十二月三日～十六日(十三泊十  
四日)

経 費 金三十二万円

募集人員 四十名

締切日 五月末日

申込先 全日本仏教会国際局宛

韓国仏教図書館

仏書贈呈感謝録(三)

高野山真言宗々務所

「弘法大師全集」八巻、「密教の信仰と倫理」等百三巻

総合計 六八四冊

事務総局録事(三月)

- 一日 大会準備正副委員長会議  
講習会打合せ文化庁訪問
- 五日 全仏中央講習会  
局内会議
- 六日 靖国問題連絡会議
- 八日 戦死戦災殉難者追悼法要  
(東京本願寺)出席
- 十四日 宗教者平和会議(京都)  
ポロフドール視察団帰国
- 十五日 全仏二十年を語る座談会  
大会準備委員会
- 十六日 国際仏教交流センター役員  
会出席
- 十七日 局内会議
- 二十七日 関西事務局連絡会議  
真言宗醍醐派訪問
- 二十八日 自民党本部打合せ  
カンタベリー大僧正を囲む  
昼食会(英国大使館・金子副会長出席)

昭和48年4月1日

お寺に仏旗をかかげよう

大	たて 150C—よこ 247C	¥ 4,500円	小	70C—100C	¥ 1,500円
中	90C— 135C	¥ 3,000円	手旗	35C— 50C	¥ 800円

もめん 別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)  
各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

111 東京都台東区西浅草1-5-5

電話 03・843・6341~3



■コミュニケーションの世界を大きく変える

〈小さな〉

Sopic

- ▶ ソピックは、全日本仏教会ご推薦の新しい音響機器です。
- ▶ ソピックは、本などの上に貼った透明なソピックシート(直径8cm)からワンタッチで明快な音声をとり出すことができ、画期的な音の出る本を完成させました。
- ▶ ソピックは仏教界の教化、伝道、学習などの諸活動をはじめ通信教育や各種の情報伝達にすばらしい能力を発揮します。
- ▶ ソピックを仏教精神の育成に！新しい布教活動に！そして信仰の護持にお役立て下さい。

\*パンフレットのお申し込み、お問合せは



発売元/株式会社 TBSサービス

東京都港区赤坂5丁目3番50号(TBS別館)

製造元 Jmc 日本重化学工業株式会社

東京都中央区日本橋小網町2丁目14番地

昭和四十八年四月一日発行  
四月号 第一八六号

発行人 麻布照海

編集人 岩脇宏信

発行 財団法人 全日本仏教会  
東京都台東区西浅草1-5-5(東京本願寺内)